

第21回全国部落史研究大会 全国部落史研究会第8回総会のご案内

日時 2015年7月25日(土)、26日(日)

会場 熊本学園大学 高橋守男記念ホール

〒862-8680 熊本市中央区大江 2-5-1 TEL 096-364-5161 (代表)

参加費 研究大会【会員】 個人 2,000円、学生 1,000円

【非会員】 個人 4,000円 (2,500円)

学生 3,000円 (1,000円)

※()内の金額は1日参加の場合の参加費
※参加費には報告書代が含まれます。

研究交流会 5,000円

熊本市人権ツアー 3,000円 (バス代、資料代)

主催 全国部落史研究会



JR熊本駅から熊本市バスにて約20分 おおえとろく
 ・第一環状線(大学病院回り)乗車の場合、バス停「大江渡鹿」下車徒歩約5分
 ・中央環状線(大学病院回り)乗車の場合、バス停「学園大前」下車すぐ
 熊本空港から約60分
 ・空港バスにてバス停「味噌天神」下車徒歩約15分
 ※詳細な地図は以下のホームページをご覧ください。
<http://www.kumagaku.ac.jp/daigaku/map/access>

プログラム

■ 第1日目 [7月25日(土)] 受付 12:00~

全国部落史研究会第8回総会 12:30~13:10

第21回全国部落史研究大会開会行事 13:10~13:30

第21回全国部落史研究大会分科会 13:30~17:00

前近代分科会 テーマ：近世九州中北部の被差別民

第1報告「福岡藩における三つの被差別身分について」

石瀧 豊美 (公益社団法人福岡県人権研究所、イシタキ人権学研究所)

第2報告「一江戸時代の長崎一 犯科帳が記す被差別民の日常」

阿南 重幸 (特定非営利活動法人長崎人権研究所)

近現代分科会 テーマ：高度経済成長期における部落問題—同和对策審議会答申成立をめぐる諸問題—

第1報告「内閣「同和对策審議会」と全日本同和对策協議会 —「全日本同和会」結成前後の活動とその影響—」

割石 忠典 (芸備近現代史研究会)

第2報告「1950年代の被差別部落の状況と政策形成 —奈良県を事例に—」井岡 康時 (天理大学)

第21回全国部落史研究大会研究交流会【事前申込必要】 18:00~20:00

■ 第2日目 [7月26日(日)] 受付 9:00~

第21回全国部落史研究大会全体講演 (講演+質疑) 9:30~12:00

「熊本の被差別部落の成立とその展開」山本 尚友 (熊本県部落解放研究会、熊本学園大学)

閉会行事 12:00~

地元特別企画「熊本市人権ツアー」(定員45名) 13:00~17:00

参加申込方法

①裏面の申込書に必要事項をご記入の上、7月17日(金)までにFAXにてお申し込みください。

②また、入金金額(参加費)を7月22日(水)までに以下の郵便振替口座にお振り込みください。

なお、払込手数料は参加者負担でお願い致します。

口座記号番号 00920-3-256172

加入者名 全国部落史研究会

③宿泊は各自でご予約ください。

お問い合わせ先

全国部落史研究会事務局 (担当/松本)
 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8F

TEL.06-6581-8576 FAX.06-6581-8540

熊本県部落解放研究会 (担当/吉田)
 熊本市中央区神水1丁目3-7 熊本市建築士会館6F

TEL・FAX 096-223-6707

申込期限 2015年7月17日(金) 必着

■前近代分科会の内容

第1 報告「福岡藩における三つの被差別身分について」 石瀧 豊美 (公益社団法人福岡県人権研究所、イシタキ人権学研究所)

福岡藩の被差別身分について、二つのことを報告する。

1. 福岡藩には三つの被差別身分があり、他にはない。被差別身分は近世の「身分」として差別を受けたものである。それをどうやって確定すべきか。
2. 従来の研究では、福岡藩における被差別身分の石高所有は直ちに「農業従事」と見なされてきた。その暗黙の前提には疑問がある。石高所有の意味するものは何か。

第2 報告「一江戸時代の長崎一犯科帳が記す被差別民の日常」 阿南 重幸 (特定非営利活動法人長崎人権研究所)

犯科帳とは長崎奉行所の判例集である。とはいっても、寛文期から幕末までの200年間に起こった事件8,400件が収録され、145冊に上る膨大なものである。今回は、この判例集から被差別民(えた・ひにん)に関わる記録245件から特に重要と思われる事件を抜き出し、その背後に見える彼らの日常生活を描こうとするものである。報告者はすでに、非人に関する分析を行ったことがあるので、本報告では、「えた」身分に関する事例について主に報告したい。

■近現代分科会の内容

第1 報告「内閣「同和对策審議会」と全日本同和对策協議会ー「全日本同和会」結成前後の活動とその影響ー」
割石 忠典 (芸備近現代史研究会)

第2 報告「1950年代の被差別部落の状況と政策形成ー奈良県を事例にー」 井岡 康時 (天理大学)

今年は、第二次世界大戦での日本の敗戦から70年になる。戦後部落史の研究としては、日本国憲法の制定や高度経済成長をもたらしたものの、部落解放運動や同和行政、同和教育などの個別事例の研究、それらが日本社会のなかで果たした役割、戦前と戦後の継承性の検討など、さまざまな研究課題があるが、そうした課題の一つとして1965年8月に国の同和对策審議会が出した答申がある。

同対審答申を導き出した要因は、部落解放全国委員会(後に、部落解放同盟)だけではない。地方自治体を中心とした全日本同和对策協議会(全同対)による国・政権与党への働きかけも、同様に明らかにしなければならない。同和行政を「国策」として推進させようとするれば、与党=自由民主党が動かなければ前に進まなかったから、1960年に結成された全日本同和会を中心とする部落内部の保守勢力や自民党内部の動きも重要である。そしてそれぞれの要因は、地域の状況によって軽重がある。

今大会では、割石報告、井岡報告からさまざまな論点を整理し、今後の研究課題を明らかにしていく。

■全体講演の内容

「熊本の被差別部落の成立とその展開」 山本 尚友 (熊本県部落解放研究会、熊本学園大学)

熊本の被差別部落は、南北朝時代の初頭にその存在が史料から確認できる。これは全国的にみても希有な例である。また、熊本には江戸時代初頭の鉢叩に関する、詳細な存在形態を知ることができる史料が残されている。そこから彼らが穢多身分とは異なり、一部で百姓身分となる動きを示していたことを知ることができる。

同じ時期、細川家は穢多の斃牛馬処理権を剥奪するという、これまで他の地域では知られていなかった政策をとっており、独自の支配思想をもっていたことを伺うことができる。これら、極めて独自な性格をもつ熊本の被差別部落とそれを取り巻く社会を紹介していきたい。

■熊本市人権ツアーの行程(予定)

熊本学園大学出発(13:00) → 本妙寺(到着後参道をのぼりながら、ハンセン病者の集落について説明、本妙寺宝物館見学) → 長六橋および下河原・井出の口刑場跡、団子地藏 → 本庄・春竹地区(ふれあい文化センター、済生会病院跡、辛崎神社、春竹説教所、集合墓地、熊本水平社発祥の地) → 熊本駅到着・解散(17:00)

第21回 全国部落史研究大会 参加申込書

送信先 24時間受付

全国部落史研究会事務局 宛
FAX.06-6581-8540

下記必要事項をご記入の上、FAXにてお申込みください。

お申込者名	電話番号()	-
	FAX番号()	-
	携帯番号()	-
ご住所 〒	-	

お申込み締切日 2015年7月17日(金)

	参加者名	会員	總會	研究大会(1日目)	研究大会(2日目)	研究交流会	人権ツアー	入金金額	備考
例	熊本太郎	○	○	○	○	○	○	10,000円	
1								円	
2								円	

(参考) ①研究大会の参加費は会員2,000円、学生会員1,000円、非会員(個人)4,000円(2,500円)、非会員(学生)3,000円(1,000円)、()内の金額は1日参加の場合の参加費 ②研究交流会の参加費 5,000円 ③熊本市人権ツアーの参加費 3,000円

※研究所(会)でのお申込みは、一括でも結構です。

※お申込み内容は、研究大会の運営上の目的以外には使用いたしません。